

- **救出、救助における対策**

# 第2回委員会での主な意見

## ① 安否確認の方法

- ・安否確認がとれていない世帯は、どのようにして割り出されたのか。
- ・対象範囲の全世帯に対して、訪問・聞き取りを行ったか。
- ・避難所での安否確認とは連動していなかったのか。

## ② 重要施設への対応

- ・基幹病院の周囲が浸水するとどうしようもない状態になる。
- ・周辺を重点的に浸水対策を行うか、それとも救急活動は必ずできるような体制を確保するか検討が必要ではないか。

# ①安否確認の方法

(安否確認、避難所との連動)

## 現状

- ・安否確認は、危険な水位高の住宅をブロック別で整理して、そのブロックの中は、全世帯を確認している。
- ・避難所との連携は行っていない。近所の方への聞き取りや、家に貼った連絡用紙を見た方が後で連絡が入るかなどで確認をしている。

## 対策

- ・避難所との連絡体制を強化していく。
- ・避難所で取得される避難者カードの情報を消防本部と共有し、避難が完了した世帯の確認を行う。

## ②重要施設への対応

(基幹病院などの重要施設の周囲の浸水)

### 現状

- ・市内全域の至るところで冠水しているなかで、救出・救助に時間を要したため、いかに短縮して効率よく搬送できるかを検討している。

### 対策

- ・消防車で搬送可能なボートを増やすことで機動力、救助能力が向上し、救助、救急活動を効率的に行うことができる。
- ・ただし、道路が冠水し車両が通行できない場合もあり、救助、救急の要請場所次第では、徒歩、もしくはボートでの移動となるため、時間を要することとなる。

## ③その他考えられる対策

### 1)通信・連絡手段の多重化

**現状** 胸まで浸かっての活動により、通信・連絡手段の一つである各隊配置の携帯電話（ガラケー）が水没し、情報伝達に支障をきたした。

**対策** 防水型スマートフォンを各隊に配置により、画像並びに動画による情報伝達が可能となる。

### 2)救出手段の強化

**現状** 人命危険に至る程の浸水深に達した冠水地帯が市内至る所に発生し、最も安全に救出可能なボート並びに救命胴衣が不足した。

**対策** ボートを全署所に配置（予定）  
（吉野、明治、勝立の各出張所に計3艇を配備）  
要救助者用の救命胴衣を配置

### 3)情報収集手段の多様化

**対策** 道路の冠水や住宅への浸水等、SNS上には貴重な情報が寄せられていることから、これらを活用することにより、現地に赴くことなく状況を知ることができる。

### 4)最新技術の活用

**対策** ドローンを利用して被災状況を把握することを検討する